

旅立ち

社会福祉法人しらとり会
利用者通信（NO. 65）
令和2（2020）年11月1日発行

今月は、5名の方からの投稿です。

落語・相の手都々逸

・「私、染め物屋なんですが、染めるのを止めました」。

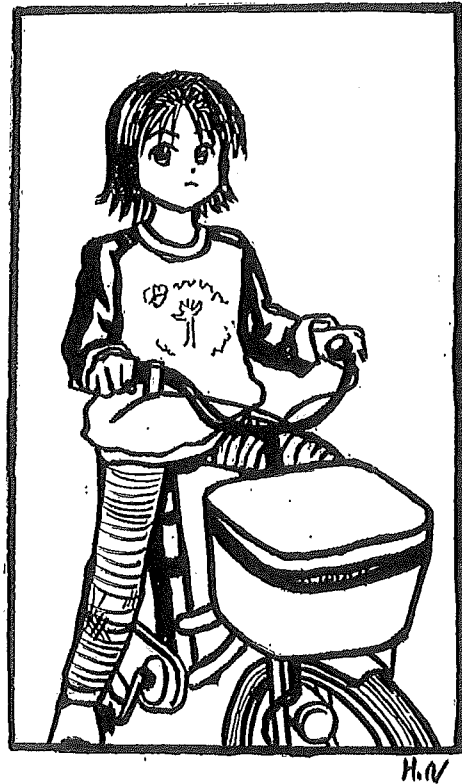
（で、どう成りました？）

「むしろよくに成りました」。

・「私、警察官なんですが、四人逮捕するのを止めました」。

「ここにん逮捕に成りました」。

（岡本 祐子）



1986年 一同志社大学卒業後の話ー（その4）

ー1986年4月から1987年、1988年の事ー

S63（1988）年位から、京都第一赤十字病院にかかっていました。昭和の終わりの頃。世間では、千代の富士が横綱として活躍してました。その頃、偶然母が大阪府枚方市光善寺で、本屋の委託販売を見つけ、両親と僕とでやってました。僕はいい加減な気持ちで仕事に取り組んで、お昼頃に本屋に出て、夜の21時くらいまで手伝ってました。それは、S63年、H元年、H2年と続いたのですが、父が心房細動になって入院しました。H3年の初めのころだったと思います。

（YY）



- 法人の業績が悪い場合、首になるのは現場の従業員だ。
- では誰が経営しているのか？
- 経営者や管理職だ。
- 出来の悪い経営者のつけを職員が払っている。
- 何故経営能力のない経営者が経営責任をとって辞めないのか？
- 経営者の地位が安定していると人間ボケてしまう。
- 経営者は常に背水の陣でなければならないし、後ろは奈落の底で身分や地位を安定させると消費者はおろか部下の生活を考えない。
- 職員や職員の家族の生活を担保に無理強いをする経営者は経営者たる資格はない。
- 受験生が進学を諦め婚約破棄もあり得る。

(加藤忠男)

【投稿の募集】

読んでいただいた方からのご感想をお寄せください。また、利用者の皆様からの投稿をお待ちしています。

次回の締切は、11月16日(月)です。

『旅立ち』編集委員：加藤、本川、A-Z、H.A.